

七友会 だより



御所湖の日の出と白鳥

INDEX

遠藤会長ご挨拶	2
学部長ご挨拶・ご退任の先生ご挨拶	3~4
2022年度評議員会での事業報告	5
2022年度会計決算報告および会計監査報告	6
40周年記念式典年度毎予算決算	7
2023年度事業計画・2023年度会計予算	7~8
第26回岩手大学同窓会連合理事会が開催されました	9
お知らせ	10

これからの予定

令和6年6月8日(土) 午後2時 2024年度評議員会
会場：岩手県公会堂
参加方法等についてはホームページでお知らせします

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>

〔連絡先〕 020-8550 盛岡市上田3-18-34
岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛
電話：019-621-6701 FAX：019-621-6715
Eメール：shichiyu@iwate-u.ac.jp

ホームページ

<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/shichiyu/>

岩大 七友会

検索



ご挨拶

岩手大学人文社会科学部同窓会七友会会長
遠藤 隆

今年も年度末が近づいて同窓会報を発行する時期となりました。昨年5月にはコロナが新型インフルエンザ扱いの2類から、季節性インフルエンザ扱いの5類へと移行しました。病気に関する行政の関与が少なくなり、2020年以来続いていた「コロナ禍」もやっと収束の方向に向かいました。これから景気も上向いてくると喜んでいたのも束の間、今度は元日早々、能登半島で大地震が発生し、大勢の方が亡くなり、また被災者の皆さんも大変な日々を送っておられます。1995年の阪神淡路大震災から東日本大震災、熊本地震、そして今回の能登半島とこの30年足らずの間に大地震が4回も発生していますが、このうち熊本を除く3回は寒い時期に発生していて被災者を苦しめています。

この一年、七友会は大きな活動はなく、むしろコロナのせいで卒業式や入学式などへの同窓会役員の出席も自粛ムードで、活動の機会を奪われていました。これからは活動もかつてのように盛んになってくると思います。

まず縮小開催していた「卒業生・修了生と学長と懇談会」が7月28日東京で開催され、大学当局は積極的な参加を呼び掛けています。昨年9月に開催された懇談会では稲垣副会長が、人社代表として起業家精神について熱弁をふるい、参加者に対するアンケートでも、演者やイ

ベントの中で最も高い評価を得ました。今年はこれまでよりリラックスした雰囲気で行いたいとのことで、メインタイトルを「トークカフェ in 東京」として、各学部同窓生代表の話も、講演ではなく学長とのディスカッションという形にするそうです。関東の七友会生を中心に、積極的な参加をお願いします。

次に2029年の岩手大学創立80周年に向けた準備が本格化します。記念事業の目玉は、中央食堂をリニューアルして、食堂としての機能だけでなく学生なども活用しやすい施設にすることを検討しているようです。また各学部同窓会に対しても記念事業の実施が求められています。これには各同窓会1000万円の支出が必要で、最も歴史が浅く資金力の乏しい七友会は苦戦を強いられそうですが皆さんのご協力、ご支援をお願いいたします。

七友会は、今年役員の改選時期に当たっていて、我々一期生を中心とした体制も大幅な刷新が必要です。一期生はとくに定年の年齢を過ぎていますが、次世代の方たちも定年に近づくか過ぎています。同窓会活動をバトンタッチして、来る人社設立50周年（2027年）に向けて準備をしていただきたいと思います。我々は縁の下から新しい体制の皆さんを支えるつもりです。

横山学部長ご挨拶



人文社会科学部
学部長 横山 英信

七友会の皆様にはいつも本学部の教育・研究に対して物心両面からのあたたかい御支援を頂いていますこと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

さて、本学部は2016年度に従来の人間科学課程、国際文化課程、法学・経済課程、環境科学課程の4課程を再編して、現在の人間文化課程、地域政策課程の2課程制にいたしました。

そこでは人間文化課程に9専修プログラム、地域政策課程に5専修プログラムを配置し、主副専修プログラム制の下で、学生に主専修を自課程の専修プログラムの中から1つ、副専修を自課程及び他課程の専修プログラムの中から1つ選択させることとして（副専修については課程横断型副専修プログラムである「グローバル・地域人材育成」を選んでもよい）、本学部の理念である「専門深化と総合化」をいっそう具体化・深化させる教育体制をとってきました。

このたび、2025年度に専修プログラムを再編し、新たな専修プログラムに基づく学部教育をスタートさせることになりましたので、御報告申し上げます。

具体的には、人間文化課程、地域政策課程という2課程制、及び主副専攻プログラム制についてはそのまま維持しつつ、人間文化課程の専修プログラムを9つから5つ（「国際文化」「日本文化」「現代社会共創」「人間

2025年度に人文社会科学部の専修プログラムが再編されます

行動」）に、地域政策課程の専修プログラムを5つから4つ（「政策法務」「企業法務」「地域社会経済」「地域環境」。これ以外に、副専修のみのプログラムとして「地域社会連携」を置く）に再編するというものです。「グローバル・地域人材育成」は従来どおり課程横断型の副専修プログラムとして配置します。

これは、従来よりも専修プログラムを大括りにすることによって学生の学修範囲や選択肢をさらに広げるとともに、各専修プログラム担当教員の数を増やすことによって、いっそう安定的な教育体制を構築することを狙ったものです。また、各専修プログラムが提供する科目についても現代社会・地域社会のニーズに応えたものを新たに導入します。専修プログラム再編については人文社会科学部のホームページの「お知らせ」

（2023.12.11 ニュース「人文社会科学部は、2025年4月に専修プログラムを再編します」）に掲載されていますので、詳細についてはそちらを御覧頂ければ幸いです。今回の専修プログラム再編によって2016年度の学部改組の成果がさらに発展することを期待しているところです。

なお、2025年度には理工学部と農学部の再編、そして岩手大学の5番目の学部となる獣医学部の新設も予定されています。加えて同年度には教養教育の改革も行われることになっており、本学部のみならず岩手大学全体にとって大きな節目となります。

日本の大学教育全体が大きく変化していく中、七友会の皆様にはこれからも変わらぬ御支援・御指導を頂けまよう、お願い申し上げます。

ご退任の先生ご挨拶



人間文化課程
教授 阿部 裕之

定年退職の記念展を終えて

1988年に岩手大学の門をくぐり、様々な出会いの中でこれまでお世話になったことは、とても恵まれたことでした。

当時、教育学部の特設美術科の聴講生として上田郁夫先生の門下に入れていただいたことにはじまり、大学の工房を使わせて

いただいたことが、現在へと繋がっております。

鑄造の本格的な設備がなければ、鑄造の仕事はできません。そして、一人ではなかなか作業も難しいときがあります。その都度、学生たちが、自分の制作をしながら私の制作の手伝いをしてくれました。ありがたく感謝しております。

美術鑄造の技法の中には、真土（まね）による日本式込型鑄造、鋳型鑄造、鋳型鑄造を中心に、生型鑄造、CO2ガス型鑄造、など様々な技法がありますが、私は最近、ヨーロッパ式石膏鑄造で作品を多く制作しています。焼成前のヨーロッパ式石膏鑄造の鑄型は丈

夫で、型の移動などに人の手を煩わせなくても済むことも一つの要因です。

ご存じのように、岩手県は南部鉄器のふるさとであり、私が鑄造に触れた原点もそこにあります。鉄の融点は約1500℃、比べてブロンズの融点は約1000℃と鉄のヤスリなどでの加工の自由さがあり、学生時代から、より表現の自由度の高いと感じられたブロンズの鑄造を中心に制作してきました。ブロンズの素材としては10円玉と同じような成分で、銅と錫の合金です。錫の効果で流動性が良くなり、金属の持つ可溶性の性質により、熱を加えることで液状になり、金属の流れ込む隙間を作ることによって必要な造形が得られます。

原型制作はもちろん、熔解の作業は凛とした緊張感のある、おもしろい作業です。

岩手大学にかかわる前の30年間、岩手大学にかかわった35年間、そしてこれからの第3ラウンドも、創造することを楽しみながら過ごしてゆきたいと思います。

今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



人間文化課程
教授 後藤 尚人

定年退職を迎えて

遂に来たか、とか、あと少しで楽になる、とか、いろんな感情が絡まって一言ではうまく表現できないのが「定年」への想いです。

1988年に神戸大学で助手に採用され、岩手大学には1991年から講師、助教授、准教授、教授と33年間お世話になり、計36年の教員生活でした。

この間、何ができて、どのように大学に貢献できたのかを振り返ると、たいした研究はできなかったものの、大学運営にはいくらか足になったかなというのが実感です。

もともとはフランス文学を志していましたが、2000年の学部改組時に欧米講座を飛び出して、文化システムコースを新設し、文化

記号論の教育研究にシフトしたところで、国立大学法人化（2004）と同時に設置された大学教育センターで専任的業務をするようにと当時の進藤理事・副学長から命を受けた時が転換点でした。

以後、大学教育総合センター、教育推進機構（教養教育センターを含む）、教学マネジメントセンターと名称は変わりましたが、数年間を除き、ほとんどの時間をそこで過ごすことになりました。

この間、全学共通教育の改革（2007）や、アイアシスタントの導入（2007）、いわて高等教育コンソーシアムの立ち上げ（2008）、100分授業の導入（2019）、岩手大学創立70周年記念誌の刊行（2019、英語版2022）、アイアシスタント2の導入（2020）などに関わり、今は、教養教育（主に学問知）の改革を推進しています。

人社内では、文化システムコースから現代文化専修プログラムに移り（2016）、本年度で定年退職ですが、現プログラム生が残るあと数年間は授業を担当（非常勤）しますので、今後ともよろしくお願ひします。



人間文化課程 教授 浅沼 道成

定年退職を迎えて

私は盛岡市出身で、大学の教員として鹿児島県鹿屋市にある国立鹿屋体育大学の助手からスタートしました。岩手大学人文社会科学部には平成4年7月から約30年務めてまいりました。今振り返れば、7月から赴任ということで、台風で帰れず6月30日に大学の仕事で滞っていた沖縄から飛行機で直接盛岡の実家に戻り、スーツを購入して赴任したことが思い浮かべられます。ありがたいこと(?)に鹿屋体育大学の学長が岩手大学からの割愛に対して、私が助手から講師に昇任させたばかりですんなりと割愛を受任できないと言われました。当時の鬼澤学部長と鹿屋の学長との間でどのようなやり取りがあったか定かではありませんが、7月赴任という多難なスタートを切りました。7月からほとんど授業担当が無く、赴任するなり『岩手大学一般教育30年史—一般教養部

から人文社会科学部への歩み—』という本を渡され、勉強してくれと言われたことを鮮明に覚えています。私が人文社会科学部に移ってきた大きな理由の一つに、教養部から総合学部としてスタートしてきた中で、全ての教員が専門教育に関わっていない構図があり、特に体育系の教員が専門教育に関われることが課題でした。数度の改組を経験しながら2016年の改編で、人間文化課程スポーツ科学プログラムがスタート出来ました。赴任以来の課題が解決できた瞬間でしたが、残念ながらスポーツ科学プログラムは2023年を持って学生募集を停止しました。短命でしたがようやく使命を果たせた大きな足跡を残せたかなと自認しています。まだ、在校生が残っているのはつらいですが、卒業生にはスポーツの多様な価値が共存できる社会の実現に資する人材となっていってほしいと期待しています。

最後に、岩手大学で私自身この30年で多くの経験を積み、また多くの学生の教育・研究に携わり、後半は震災復興を含め地域貢献に力を注いだあつという間の出来事でした。多くの学生や教職員、そして地域の方々にご支援をいただき改めて御礼を申し上げます。



人間文化課程 教授 北村 一親

定年退職を迎えて

赴任時は土曜に授業もある勤勉な時代でしたが、その反面大学設置基準の大綱化によって大学の大変革に周囲が焦りだした時代でもありました。しかし30余年経ても代り映えない有りように変革は上から下まで一斉に起こる、かもしれないと気付かれました。まるで言語の変化を見ているようです。

この間、多くを学びましたが忘れられない方々に深謝し御礼申し上げます。庶務課の小笠原課長さんには着任早々に「アンタ今日教授会があるからね」とアクリルの30cm物差しで私の方を差しながら教えて頂きました。物差しは「人差し」にも使えることと同時にこの地方では二人称に「アンタ」を使うのだと判り言語学的刺激を受けました。また研究協力係の千田さんは女帝の風格があり長らく

お世話になりました。学部長裁量経費に応募したので他の応募テーマ一覧を伺おうとしたところ目的を問われ、このような些事にも使用目的を明確にせねばならぬと自戒しました。因みに学部長裁量経費が教授会で公表されるようになったのは大分後のことです。これら忘れられない思い出です。

更に女性教員の会の方々には特に深謝します。学長プロジェクトのため毎日15分睡眠で将に死に体の時に、かばい手となって頂きました。厚く御礼申し上げます。これを契機に自身が些か身を引くがちなことは否めません。「学問と平和」の授業で長らく題材の一部としていた韓国語版「風に吹かれて」を歌ったスオ・ユソク氏のように自身が時代の傍観者になるとは夢想だにしませんでした。

畢竟この国を貶したのは政治か経済か、将又官僚か教育者か?… „Die Antwort weiß ganz allein der Wind“

最後になり恐縮ですが現学部長の横山英信先生には様々な面で支えて頂き衷心より感謝申し上げます。本当にお世話になりました。



人間文化課程 教授 松林 城弘

定年退職のご挨拶

教員になって約40年。瀬戸内海に浮かぶ小島の中学校教諭からスタートし、神戸市立のマンモス中学校並びに働きながら学が神戸市立定時制高等学校、ロボコンに強かった奈良工業高等専門学校を経て岩手大学にたどり着き26年が過ぎました。不思議なことに、名前を見るだけで何十年も会っていない当時の生徒や学生の顔がくっきりと浮かびます。特に、研究室の棚に並ぶ数百冊に及ぶ卒論を眺めていると、精確に書き上げた学生達の顔と共に思い出が蘇ってきます。こうした一人一人の生徒や学生が今の自分を育ててくれたのだと実感しています。

学生時代から山登りが好きで、日本の山だけでは物足りなく、海外の山にも足を伸ばしてきました。なぜこんなにも山に登ったのかと考えると、登った者にしか見えない景色があり、一つのピークを

登れば、その先のピークが見え、次回はそこから新しい景色を見たい、という想いが湧いてきたのだと思います。飽きやすい性格の私が40年も教員を続けてこられたのは、山登りと同じで、中学校でしか出会えない景色があり、高等学校や高専でしか出会えない景色があり、そして、岩手大学でしか見られない景色を学生達と共に楽しんでいく間にあつという間に時が過ぎたという感じです。

関西在住時に阪神淡路大震災を経験し、岩手に着任後は東日本大震災を経験しました。この先、社会的・経済的な息苦しさも待ち構えているかもしれません。立ちふさがる壁を乗り越えるのではなく(壁を乗り越えるのは泥棒かスパイダーマンだけ)、何とか隙間(ニッチ)を見つけて、回り道を探しながらすり抜けていきたいと思います。定年退職後の4月からは、故郷の関西に戻り、週3日働き、残りの4日は山仕事と畑仕事、そして好きな絵を描きながら、それぞれの場面で新しい景色を楽しみ、日々の生活を何とかすり抜けていきたいと思っています。最後になりましたが、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。長い間本当にありがとうございました。



地域政策課程 教授 竹原 明秀

定年退職を迎えて

時代が昭和から平成に遡る1989年4月に岩手大学に赴任し、幾多の難題を経て、令和の時代が進む中、定年を迎えられ、感謝の限りです。

赴任当時、17名の教官からなる大所帯の共通コース基礎自然科学講座に所属しました。学生定員はなく、担当する主たる授業は、いわゆる教養課程の講義と人社以外の学生を対象とする実験でした。当時、学生実験をどのように運営していくのかという議論がありましたが、最大の課題は「大綱化」への対応でした。いわゆる一般教育に関する規定がなくなることによる我々の講座の存続問題でした。講座の選択肢として解体、そして分属という話もありましたが、幸い解体されることは回避されました。つまり、「学部設置が緩やかになることによって、人社を総合科学部的に変更していくことが可能になった」

と前向きに捉え、理系コースを設置できると考えました。そこで我々の講座は教養課程の授業だけでなく、専門課程の授業と卒業生を出せる新コースの設置を目指しました。新コースは平成3年度から検討が始まり、平成5年4月に環境情報科学コースとして新たな第一歩を踏み出しました。その後、平成12年度の学部改組で環境科学課程、平成28年度の学部改組で環境共生専修プログラムへと所属先は変わりました。これはまた、仲間たちとの分離、そして縮小へと向かうことでした。最大20名いた人社基礎自然科学系統の教員は現在2名、理系の灯火、文理融合の理念が消えないことを祈るのみです。

最後に研究に関してもひとこと話を添えます。これまでに様々な地域での植物たちの生活を明らかにしてきました。北はカムチャツカから南はアマゾンまで、悪路はるかサバイバル然り、盗賊との遭遇、ゲリラとの生活など、現場でなければ体験できない世界での植物調査でした。国内では様々なお宅を訪ね、屋敷内の植物調査をさせて頂きました。見ず知らずの私や学生たちを快く受け入れ、食事まで頂き、日本人の懐の深さを知りました。これからも生物たちの多様性に触れながら研究できればと思っています。

2022年度評議員会での事業報告

1. 2022年度も、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、活動制限を余儀なくされました。
評議員会もやむなく会場参加、オンライン参加、書面表決によるハイブリッド開催としました。
2. 2022年7月2日（土）に七友会設立40周年記念同窓会をホテルメトロポリタン盛岡にて開催しました。当日は、小川智岩手大学学長はじめ8名のご来賓をお迎えし、66人の同窓生が一堂に集い開催されました。
3. 七友会設立40周年記念同窓会の準備のため、実行委員会を合計11回開催しました。
4. 会報「七友会だより」は、第52号を2023年3月13日に発行しました。

2022度のおもな活動は次のとおりです。

- 2022年4月7日（木） 40周年記念同窓会第7回実行委員会開催（遠藤会長ほか10名参加）
役割分担、しおり、次第を決定
- 5月13日（金） 40周年記念同窓会第8回実行委員会開催（遠藤会長ほか8名参加）
会場でのみの開催を決定。シナリオ及び受付準備
- 5月24日（火） 第24回岩手大学同窓会連合理事会
議題1. 令和3年度事業報告（案）について
議題2. 令和3年度決算（案）について
議題3. 令和4年度事業計画（案）について
議題4. 令和4年度予算（案）について
議題5. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第14回）について
議題6. 岩手大学同窓会連合会則の改正について
議題7. その他
報告1. 各学部同窓会活動報告について
報告2. 岩手大学の財務状況について（状況報告）
報告3. その他
（遠藤会長、鈴木護幹事 出席）
- 6月4日（土） 岩手大学開学記念行事（遠藤会長 出席）
- 6月18日（土） 2022年度評議員会
議題1：2021年度事業報告、会計決算報告
議題2：2022年度事業計画（案）、会計予算（案）
議題3：役員改選について
その他
40周年記念同窓会第9回実行委員会開催（遠藤会長ほか9名及び会場担当者1名参加）
座席、受付、当日の役割分担の確認
- 6月25日（土） 40周年記念同窓会第10回実行委員会開催（遠藤会長ほか10名及び会場担当者1名参加）
会場での最終確認
- 7月1日（金） 岩手大学農学部創立120周年並びに北水会発足100周年記念式典・講演会・祝賀会
（遠藤会長 出席）
- 7月2日（土） 七友会設立40周年記念同窓会
会場：ホテルメトロポリタン盛岡 参加者：74名
- 9月3日（土） 岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会（第14回）（遠藤会長 出席）
- 11月18日（金） 40周年記念同窓会第11回実行委員会開催（遠藤会長ほか10名参加）
事業報告及び決算報告
- 11月28日（月） 岩手大学と同窓会との連携強化に関する会議（遠藤会長 出席）
- 2023年3月23日（木） 岩手大学人文社会科学部定年退職教員記念品贈呈（遠藤会長 手交）

2022年度会計決算報告および会計監査報告

今回の会計監査については、新型コロナウイルスの影響で移動に制限があったことから、相澤監査員に監査を実施していただいております。

2022年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計決算報告

一 般 会 計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
会 費	3,740,000	3,740,000	0	214名
前 年 度 繰 越 金	2,813,564	2,813,564	0	
特 別 会 計 より 繰 入	3,000,000	3,000,000	0	
雑 収 入	36	40,050	40,014	50 (利息) 40周年お祝い金 4 万円
合 計	9,553,600	9,593,614	40,014	

<支出の部>

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 事 業 費	5,980,000	5,896,298	△ 83,702	
1) 会 報 発 行	1,850,000	1,984,133	134,133	
ア. 印 刷 費	1,200,000	1,349,829	149,829	第52号印刷代 封筒印刷、封筒入れ作業
イ. 郵 送 費	650,000	634,304	△ 15,696	第52号郵送費
2) 会 員 活 動 援 助 費	50,000	-	△ 50,000	
3) 卒 業 記 念 品 贈 呈 費	100,000	100,000	0	43期分積立
4) 支 部 援 助 費	50,000	-	△ 50,000	
5) 文 化 事 業 補 助	50,000	-	△ 50,000	
6) 寄 附 金	500,000	500,000	0	学部への奨学寄附金50万円
7) 同 窓 会 連 合 負 担 金	300,000	300,000	0	同窓会連合会費
8) 同窓会設立40周年記念事業費	3,000,000	2,962,165	△ 37,835	
9) 諸 費	80,000	50,000	△ 30,000	退職教職員記念品代等
2. 会 議 費	350,000	31,076	△ 318,924	
1) 評 議 員 会 会 議 費	200,000	8,950	△ 191,050	評議員会郵送代等
2) 諸 会 議 費	150,000	22,126	△ 127,874	40周年記念同窓会実行委員会会場費等
3. 事 務 費	500,000	99,987	△ 400,013	事務用品、振込手数料等
4. 特 別 積 立 金	-	-	0	
5. 雑 費	100,000	100,000	0	事務謝金 7 万円、アルバイト料 3 万円
6. 学部設立50周年記念積立	-	-	0	
7. 同窓会設立50周年記念積立	-	-	0	
8. 予 備 費	2,623,600	-	△ 2,623,600	データ保存料
合 計	9,553,600	6,127,361	△ 3,426,239	

2022年度収支決算

収入合計 9,593,614円
支出合計 6,127,361円
差引残高 3,466,253円は、2023年度に繰越いたします。

特 別 会 計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
前 年 度 繰 越 金	42,498,558	39,498,558	△ 3,000,000	
新 規 積 立 金	100,000	100,000	0	卒業記念品贈呈費
学部設立50周年記念積立へ繰り戻し	-	1,500,000	1,500,000	
利 息	802	731	△ 71	利息 (81+127+72+451)
合 計	42,599,360	41,099,289	△ 1,500,071	

<支出の部>

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
1. 一般会計へ繰出	3,000,000	1,500,000	△ 1,500,000	
2. 積 立 金	39,599,360	39,599,289	△ 71	年度末積立金額=翌年度繰越金額
1) 特 別 積 立 金	26,599,500	26,599,503	3	26,599,052(前年度決算)+451(利息)
2) 卒 業 記 念 積 立	4,575,440	4,575,310	△ 130	4,475,229+81(利息)+100,000(新規積立)
3) 学部設立50周年記念積立	7,402,590	7,402,589	△ 1	7,402,462+127(利息)
4) 同窓会設立50周年記念積立	1,021,830	1,021,887	57	1,021,815+72(利息)
合 計	42,599,360	41,099,289	△ 1,500,071	

会 計 監 査 報 告

2022年度の決算について監査を行い、正しく処理されていることを確認いたしました。

2023年 6 月 2 日

監査員 相 澤 文 恵 ㊞

40周年記念式典年度毎予算決算

<収入>

(単位 円)

費 目	2020年度		2021年度		2022年度		合 計		決算額の内訳
	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
一般会計から	0	22,558	560,000	12,229	70,000	22,126	630,000	56,913	
特別会計から	0	0	0	0	3,000,000	3,000,000	3,000,000	3,000,000	特別会計からの繰入れ
雑 収 入	0	0	0	0	0	40,000	0	40,000	お祝い金 (山本前学部長、細江名誉教授、北桐会、一祐会)
合 計	0	22,558	560,000	12,229	3,070,000	3,062,126	3,630,000	3,096,913	

<支出>

費 目	2020年度		2021年度		2022年度		合 計		決算額の内訳
	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
懇 親 会 費	0	0	0	0	1,360,000	1,012,362	1,360,000	1,012,362	料理@6,050 85人 514,250 飲料181,300 看板、スクリーン、プロジェクター60,500 写真84,150 会場使用料、控室料46,992 名札8,690 来賓タクシー代7,280 司会謝礼30,000 しおり印刷代79,200
アトラクション	0	0	0	0	150,000	169,640	150,000	169,640	出演料110,000 交通費59,640
D V D 製作費	0	0	0	0	100,000	0	100,000	0	
P R 費	0	0	0	0	0	0	0	0	
会 議 費	0	22,558	70,000	12,229	70,000	22,126	320,000	147,733	【2020年度】会場費19,200 お茶3,358 【2021年度】会場費10,350 お茶1,579 コピー300 【2022年度】会場費10,250 お茶1,586 コピー600 駐車場代9,690 反省会90,820
	0	0	0	0	180,000	90,820			
小 計					250,000	112,946			
キャッシュバック	0	0	0	0	500,000	170,000	500,000	170,000	県外 34人 @5,000
通 信 費	0	0	470,000	0	200,000	16,263	670,000	16,263	受取人払い郵便料(参加申込み)4,914 来賓案内及び礼状9,569 欠席者冊子送付1,780
事 務 費	0	0	10,000	0	200,000	3,080	210,000	3,080	来賓案内用封筒792 受付文具2,288
班 活 動 費	0	0	0	0	100,000	0	100,000	0	
予 備 費	0	0	10,000	0	210,000	0	220,000	0	
合 計	0	22,558	560,000	12,229	3,070,000	1,484,291	3,630,000	1,519,078	

収入 (3,062,126円) - 支出 (1,484,291) = 1,577,835円
1,500,000円を特別会計に繰り戻します。

2022年度	決算額
収 入 合 計	3,062,126
支 出 合 計	1,484,291
差引残額	1,577,835

2023年度事業計画

1. 会報「七友会だより」については、年1回の発行とし引き続き内容の充実を図ります。
2. 会員名簿の充実と事務機能の強化を図る必要があることから、引き続き事務担当者の採用やアルバイトの採用等その方策を検討します。
3. 引き続き年間予算の収入と支出の均衡を図りながら予算の執行を行います。
4. 岩手大学同窓会連合の会長を七友会の遠藤会長が務めていましたが、任期は5月末までとなっています。

2023年度会計予算

1. 2022年度に七友会設立40周年記念同窓会を開催し、特別会計の同窓会設立40周年記念積立から3百万円を一般会計に繰出ししましたが、支出が予算を下回ったことから、150万円を特別会計に繰り戻しています。
2. 今年度は、4年ぶりに評議員会を盛岡で現地開催することとしていることから、開催に見合う予算を計上しています。
3. 一般会計に余裕があることから、特別会計の同窓会設立50周年記念積立に2百万円積立します。

その他

コミュニケーションツールに係る今後の活用方法について

引き続き、ホームページを会員間のコミュニケーションツールとして活用します。

2023 年度 岩手大学人文社会科学部同窓会 会計予算

一 般 会 計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
会 費	3,940,000	3,740,000	新入生187名、編入生7名、在学生3名
前 年 度 繰 越 金	3,466,253	2,813,564	
特 別 会 計 よ り 繰 入	-	3,000,000	
雑 収 入	47	36	利息 (2022年度 50)
合 計	7,406,300	9,553,600	

<支出の部>

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
1. 事 業 費	3,050,000	5,980,000	
1) 会 報 発 行	1,900,000	1,850,000	年1回(第53号)発行予定
ア. 印 刷 費	1,200,000	1,200,000	第52号印刷、封筒印刷、封筒入れ作業1,349,829
イ. 郵 送 費	700,000	650,000	第52号郵送費634,304
2) 会 員 活 動 援 助 費	50,000	50,000	親睦会、交流会等の補助
3) 卒 業 記 念 品 贈 呈 費	100,000	100,000	44期分積立
4) 支 部 援 助 費	50,000	50,000	支部大会援助等
5) 文 化 事 業 補 助	50,000	50,000	就職ガイダンス等の補助
6) 寄 附 金	500,000	500,000	人文社会科学部へ奨学寄附金
7) 同 窓 会 連 合 負 担 金	300,000	300,000	同窓会連合年会費
8) 同窓会設立40周年記念事業費	-	3,000,000	
9) 諸 費	100,000	80,000	慶弔費、退職教職員記念品等
2. 会 議 費	600,000	350,000	
1) 評 議 員 会 会 議 費	500,000	200,000	評議員会諸経費等
2) 諸 会 議 費	100,000	150,000	会議費等
3. 事 務 費	250,000	500,000	事務用品、同窓会通信費、データ管理、HP維持費等
4. 特 別 積 立 金	-	-	
5. 雑 費	100,000	100,000	事務謝金、アルバイト料
6. 学部設立50周年記念積立	-	-	
7. 同窓会設立50周年記念積立	2,000,000	-	
8. 予 備 費	1,406,300	2,623,600	
合 計	7,406,300	9,553,600	

特 別 会 計

<収入の部>

(単位 円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	41,099,289	42,498,558	
新 規 積 立 金	2,100,000	100,000	卒業記念品贈呈費(10万円)、同窓会設立50周年記念積立(2百万円)
利 息	731	802	
合 計	43,200,020	42,599,360	

<支出の部>

項 目	予 算 額	前年度予算額	摘 要
1. 一 般 会 計 へ 繰 出	-	3,000,000	
2. 積 立 金	43,200,020	39,599,360	
1) 特 別 積 立 金	26,599,950	26,599,500	26,599,503+447(利息)
2) 卒 業 記 念 積 立	4,675,400	4,575,440	4,575,310+90(利息)+100,000(新規積立額)
3) 学部設立50周年記念積立	7,402,710	7,402,590	7,402,589+121(利息)
4) 同窓会設立50周年記念積立	4,521,960	1,021,830	1,021,887+2022年度繰戻し1,500,000+2,000,000(新規積立額)+73(利息)
合 計	43,200,020	42,599,360	

第26回岩手大学同窓会連合理事会が開催されました

開催日時：令和6年1月22日（月） 15時～16時

出席者：大学側：小川学長

同窓会：同窓会連合武田純一会長（北水会会長）各学部同窓会長

七友会は遠藤会長、吉田真二副会長が出席

～ 主 な 議 題 ～

（1）「卒業生・終了生と学長との懇談会(第16回)」の開催

開催予定日時：令和6年7月28日（日）

10：00～12：00

懇談会 12：00～13：30

会 場：KKRホテル東京（東京都千代田区大手町1-4-1東西線竹橋駅から徒歩3分）

- ・懇談会参加費は無料 ランチ懇親会は5,000円（大学から補助がある予定）
- ・岩手大学同窓会「トークカフェin東京」とし、トークセッションとして開催する。
- ・今回は北桐会（教育学部）と一祐会（工学部）からセッション演者参加予定。
- ・大学では今年の文化祭から、「ホームカミングデー」を開催する予定。

大学としては、「トークカフェ」の参加者を増やしたいとの意向ですので、関東在住の皆さんの参加をお願いします。

（2）岩手大学創立80周年記念事業について 2029年の創立80周年に向けて記念事業に取り組む。

①創立80周年記念事業について

全 学：イーハトーヴ協創ラボ・中央食堂リニューアルプロジェクト

全学部：80周年に実現したいことをプロジェクトとして実施（各学部により、今年度中に決定予定）例：理工学部90周年記念プロジェクト

②記念募金の募集について

中央食堂リニューアルに自主財源で5億円程度を見込むことから同窓生への募金を募集する

③80周年特設サイト開設について

大学ホームページに特設サイトを開設する

④各学部同窓会による記念イベントの実施について 各学部で記念イベントの開催を検討する

同窓会員に対する募金とともに各学部同窓会からかなりの資金支出を求められる可能性が有りそうです。



会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部の発展及び同窓生の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐに下記連絡先情報により七友会へお知らせ下さい。

※七友会ホームページの「お問い合わせ」からでも結構です。

連絡先情報

ふりがな 氏名	卒業 専攻	期 (S H 年 (C O U R S E 段))	月卒 研究室 ゼミ等	封筒にある整理番号 No. _____
現住所 〒				
(自宅) TEL FAX	携帯		勤務先名等 (可能なかぎり)	
E-mail				
家族等連絡先 〒				

大学の動向

今年は、3月22日(金)に、大学院修了式と2部制大学卒業式〔(人文社会科学部・農学部)(教育学部・理工学部)〕が行われます。会場はどちらもトーサイクラシックホール岩手(県民会館)です。

入学式も学部入学式が2部制〔(人文社会科学部・農学部)(教育学部・理工学部)〕で、4月5日(金)にトーサイクラシックホールにて行われます。式典の様子はインターネットでライブ配信されます。保護者については、卒業式および大学院修了式ならびに入学式ともに2名まで入場可能です。詳細はどちらも大学のホームページをご覧ください。

人文社会科学部は、2025年(令和7年)4月に専修プログラムを再編します。人文社会科学部は、1966年(昭和41年)に設置された教養部を1977年(昭和52年)に発展的に改組して創設された総合学部です。

学部創設以来、自然科学との密接な連携のもとに、従来の文学部、経済学部、法学部といった区分を超えて、人文科学・社会科学の総合的な教育研究を行ってきました。総合系学部として「専門深化」と「総合化」をより充実させ、グローバル化時代の地域社会の課題にいつそう向き合うため、2016年(平成28年)に人間文化課程および地域政策課程からなる2課程14専修プログラム体制(現行)へ改編しました。人文社会科学部は引き続き教育研究のさらなる改善のため、2025年(令和7年)4月から8専修プログラム体制に再編されます。

人間文化課程—【専修プログラム】国際文化、日本文化、現代社会共創、人間行動

地域政策課程—【専修プログラム】政策法務、企業法務、地域社会経済、地域環境

編集後記

今年は元日に能登半島地震が発生し、死亡者が200人を超えました。正月2日には羽田空港で大きな事故が起きました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。また、被災された方々にお見舞い申し上げるとともに能登地域の日も早い復旧復興をお祈りいたします。ロシアのウクライナ侵攻から2年が経過しました。パレスチナ・イスラエル戦争が続いています。「世界がぜんたい幸福になる日」は、いつなのでしょう。